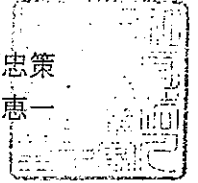




平成 17 年 6 月 3 日

厚生労働大臣
尾辻秀久 様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 松原忠策
同 保存問題委員会委員長 川上恵一



旧国立衛生院白金庁舎の保存活用についての要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴省におかれましては、常日頃から都市・街並・建築と人間の関わりに関与され、深い御理解の基に行政を導かれていることに深く敬意を表します。

私たち(社)日本建築家協会は都市文化の実体的な形成に重要な役割を担っている建築・敷地内の諸環境・周辺施設等が持続的に活用されることによって、はじめて健全で歴史的な奥行きをもった都市文化が醸成されると考えております。

さてこのたび、国立保健医療科学院(旧国立公衆衛生院)の移転に伴い、旧国立公衆衛生院白金庁舎及びその敷地が、今後の活用方法が定まらないまま貴省から財務省に移管されるとお聞きしました。

ご高承のとおり、旧白金庁舎は昭和 13 年にロックフェラー財団の寄付により建設され、我が国における公衆衛生発展の根幹となった施設です。設計は、東京大学教授で、後に東京大学総長を務めた内田祥三の指導により進められましたが、内田は関東大震災で罹災した東京大学の復興計画を推進した中心人物で、同じロックフェラー財団の寄付による付属図書館をはじめ、安田講堂などの同大学内の主要な建築の設計も手がけております。この旧白金庁舎は、その内田のまさに円熟期の作品で、独自のゴシック的な表現が高い完成度を持って実現されている優れた歴史的建造物です。また、隣接する東京大学医科学研究所附属病院(同じく内田祥三設計)と一体となって、個々の敷地を越えた、都心とは思えぬ緑の多い素晴らしい環境を構成していることも特筆するに値すると考えられます。

当委員会では、議論を重ね、東京への一極集中と都心の過剰な高密度化が都市環境に与える負荷が大きな問題になっている今日、国民の共有の財産であり、文化的・歴史的に価値の高い旧白金庁舎の建築と周辺の優れた環境を保存・活用することが、国際都市東京の都市文化の醸成に寄与するとの結論に至り、ここに旧白金庁舎の建築と周辺環境の有意義な保存・活用を要望する次第です。

なお、旧庁舎の活用に関しては、庁舎の果たした歴史的な役割を鑑み、日本における公衆衛生の発展を後世に伝える役割を新たに与えることも一つの可能性として挙げる事が出来ます。私たち社団法人日本建築家協会・関東甲信越支部、ならびに同保存問題委員会は上記実現のため、できる限りのご協力をさせていただくことを申し添えます。

敬具